



ながの環境パートナーシップ会議
令和6年度活動成果報告書

手をむすんで



私たちの活動を紹介します



つなぐ
本会会員やより多くの団体とのつながりを強化するため、総会の開催及び各種団体の活動を支援しています。



伝える
本会の活動を広く情報発信するため、主催事業の開催や他団体のイベントに参加しています。



実践する
各プロジェクトチームが様々な環境保全活動を実施しています。

ながの環境パートナーシップ会議

令和6年度活動成果報告書の 発行に寄せて



1992（平成4）年、ブラジルのリオデジャネイロで開かれた「地球サミット（環境と開発に関する国連会議）」で、持続可能な発展のための人類の環境行動計画「アジェンダ21」が採択されました。これを受けて地域行動計画「ローカルアジェンダ」作りが行われ、長野市では2003（平成15）年から、ながの環境パートナーシップ会議（以下P会議）と協働で「アジェンダ21ながの一環境行動計画」を策定し、市民・事業者・行政の協働により地域の環境保全活動を進めています。地球環境問題は、1997年「気候変動に関する国際連合枠組条約の京都議定書」、さらには2015年の温室効果ガス削減に関する国際的取り組み「国連気候変動枠組条約締結会議（COP21）」通称パリ協定という国際的な枠組での活動となっています。更に、同年9月「国連持続可能な開発サミット」が開催され150を超える加盟国首脳の参加のもと「我々の世界を変革する：持続可能なための2030アジェンダ」SDGs（持続可能な開発目標）2030年に達成すべき17の目標が掲げられました。私たちは、地球環境と未来の社会を次の世代に繋いでゆくために、持続可能な社会構築の指針となるSDGsを意識してプロジェクト活動に取り組んでいます。

今世紀に入り長野市は、循環型社会の構築を目指し、環境共生都市「ながの」の実現に向けて様々な取り組みを行っています。2021年には国の市SDGs未来都市計画に選ばれ、その第2期計画の目標を進めているところです。しかし、体温を超える気が狂ったような暑さに「もう、人間やめたい」という、悲鳴が聞こえてきそうな地球沸騰化時代と言われて2年。誰もが温暖化の主な原因は化石燃料の燃焼であることは分かっています。それでも化石エネルギーから再生可能なエネルギーへの転換はなかなか進みません。国の温暖化対策や再生エネルギー計画が一般市民の行動変容には結び付くにはハードルが高いのかも知れません。しかし、温室効果ガスの排出量を50%削減するカーボンハーフを目標に新築住宅に太陽光発電の設置義務化が一部の自治体では始まっています。私は、地球規模の問題だからと諦めず、ハチドリの一滴の如く自分が出来ることを淡々とやるだけですが、次世代の家族のために地球環境を護る施策を高齢者が応分の負担もすべき時だと思います。『私たち一人ひとりには「出来ること」が必ずあるんだよ』という、ハチドリのクリキンディの教えに勇気をもらい、今できることを精一杯やりぬきましょう。

P会議では、生物の保護育成、森づくり、里山の保全、生ごみの利活用など自然と人が共生できる環境保全活動をつなぐ、伝える、実践して取り組んでいます。環境先進都市づくりの一翼を担うP会議の活動を市民に知っていただき、より多くの市民・事業者・行政の方々に参加していただきたく発行いたします。

令和7年7月
ながの環境パートナーシップ会議
代表理事 河西 弘明



目 次



活動成果報告書の発行に寄せて(代表理事あいさつ)	
ながの環境パートナーシップ会議の概要	1
令和6年度(2024年度)活動報告	
生ごみ削減・再生利用プロジェクト	2
市民の森づくりプロジェクト	4
松代オオムラサキの里	6
ゴマシジミ・保護育成プロジェクト	8
田中さくら公園づくり&里山づくりプロジェクト	10
若槻廃食用油回収プロジェクト	11
廃材アートプロジェクト	12
プロジェクトサポーターの紹介	

ながの環境パートナーシップ会議は 市民・事業者・行政が協働し、様々な環境保全活動を進めていく組織です。

1992年、ブラジルで開催された地球サミットにおいて、21世紀にむけての課題として「アジェンダ21」が採択されました。アジェンダ21では、持続可能な社会を実現する鍵が地域にあるという考えから、地域に根ざした地球環境保全の取り組みが推進されました。

2001年に設立された「ながの環境パートナーシップ会議」では、地域版のアジェンダ21である「アジェンダ21ながのー環境行動計画ー」の策定に併せて、長野市の理想の環境像を描いた「長野市環境ビジョン」を次のように定め、これを実現する組織として様々なプロジェクト活動を推進してきました。

これからも地域から地球規模につながる環境保全活動を推進していきます。

○長野市環境ビジョン

山にみどり・川に清流・谷に風・空に星
自然と和して発展するまち・人の暮らし
みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの

豊かな山々には人の手が入り、林は清冽な水を生み、里山、田畑、水辺には多くの生き物が息づいて、豊かな恵みを与えてくれる。

まちには、木々が茂る安らぎの空間、水が流れる潤いの空間、すがすがしい風のなかを、人々がゆったりと安心して行き交う空間、自然に調和した街並みがある。そこに、地球の恵みを大切にしている市民の暮らしがある。

長野の環境を保全、復元、創造し、未来に引き継いでいこうと、ともに知恵を絞り、汗を流す多くの市民がいる。そして、市民の行動を支える仕組みがある。



活動の様子や、お知らせを随時発信しています

公式Web

<http://www.nagano-ep.net/>



公式X (旧Twitter)

@nagano_ep



生ごみ削減・再生利用 プロジェクト



生ごみチームと キッズ生ごみ農園クラブ



令和6年度(2024年)の生ごみ削減の啓蒙活動は、住民自治協議会と長野市の協力で生ごみ堆肥化講座を若槻の自治協主催で地域住民と共に信州大学工学部の学生2名が地域環境演習ⅠとⅡの学習として参加、また古里自治協の環境美化部でも生ごみ堆肥化講座を初めて開きました。

生ごみ堆肥化とその活用実践活動は、キッズ生ごみ農園クラブの会員に生ごみを持参して頂き、ミミズコンポストに投入して堆肥化します。そして、その堆肥を使って会員とスタッフで野菜や麦や豆を栽培して食と農の循環活動を実践しています。農場は、落合橋下流の河川敷で広い空と緑に囲まれた空間です。会員は、毎月2回ほどの作業を通じて生ごみ堆肥による有機・無農薬栽培の価値を理解し、地域で命を育む健康な作物を共に作る喜びを感じていると思います。農園で育てている作物は、固定種を使い播種・育苗を行い、ナス・トマト・キュウリなどの夏野菜を始め、芋類、麦類、豆類、葉物野菜など50種以上です。作業は、耕運、肥料作り、施肥、草取り、収穫作業など忙しいのですが、夏と秋の収穫祭や冬には豆腐作りなどのイベントを行い年中活動しています。

会員が生ごみを持参し堆肥化で減らす生ごみの量は、長野市全体から見ればほんの僅かですが、こうした地道な活動が生ごみは可燃ごみとして出すものではなく、野菜などを育てる資源として有効活用できます。そして、その生ごみ堆肥で育てた野菜が美味しいことをより多くの市民に知っていただきたいと思います。

主な私たちの活動を紹介します



ジャガイモ掘り



西瓜冷やして



ランチ会



ライ麦の脱穀

収穫祭やランチ会で味わう

夏は家族会員の親子16名と学生2名が参加、キタアカリと男爵ジャガイモ約200kgを収穫して、汗をかけた後は冷えた西瓜を頬張り、ジャガイモキッシュを戴きました。みんなで作業した後は、軽いランチ会で楽しく交流しています。

会員は親子で種まきから施肥や草取り作業をしますが、それを学生がスタッフと共に助け合っています。生ごみ堆肥で育てたジャガイモ・トマト・ナス・キュウリ・スイカなどの野菜を農場で味わい持ち帰っていただきます。大地の恵みが生ごみの循環で育つことを実感する瞬間です。麦刈りや脱穀は、今ではなかなか出来ない体験です。あなたも、一緒に参加してみませんか。

親子で生ごみ堆肥作り

キッズ生ごみ農園では、ミミズコンポストが大活躍です。会員は、農場に来る時、ミミズのエサになる生ごみを1kg以上持ってきます。新しい木製のシーソー式ミミズコンポストに投入します。中には約1万2千匹のシマミミズが生ごみを食べて堆肥にしてくれます。ミミズの糞は良質な堆肥になり、ふるいに掛け、鶏ふんや燐炭を混ぜて元肥や追肥に使います。



生ごみをミミズコンポストに投入



堆肥をふるい掛け

若槻と古里の自治協主催で生ごみ減量講座

7月若槻住自協の環境部員を中心に25名と信大工学部の地域環境演習Ⅰ履修の学生2名が参加、生ごみを減らす方法や自家処理するために生ごみ堆肥化の発酵について学びました。生ごみ発酵基材ビタピー5の説明や専用段ボール箱の組み立ての実習、堆肥作りのコツとその堆肥を使った花や野菜の育て方など資料を配布して説明。生ごみ減量アドバイザーの女性は、食材は余分に買わず無駄なく使い切ることを。ベランダや台所で生ごみ堆肥を使って育てたコンテナ栽培のサラダ菜やハーブを見せて、お料理の例を紹介しました。





ながの環境フェアやアモーレフェスタで野菜の販売

9月サンマリンでながの環境フェア、10月安茂里のアモーレフェスタに参加。参加者の歌とトークショーの賑わいの中で、キッズ生ごみ農園クラブ会員の「麦はどうやって出来るのか」というポスター展示や生ごみ堆肥で育てた野菜の販売をしました。大根・菊芋など有機無農薬野菜の販売は予約もあり完売でした。「生ごみを減らす活かす」のぼり旗を掲げ、チラシを配布して生ごみ削減を呼びかけました。



秋の収穫祭で交流会を

11月24日（例年は23日）に秋の収穫祭をしました。広々とした農場に家族会員19名と学生2名が参加して、大根・小松菜などの葉物や菊芋とソルガムの収穫をして、足踏み脱穀機で脱穀しとうみ掛けもしました。更に、来年収穫のライ麦と大麦の種まきもしました。そして、野菜の看板も手作りしました。

収穫の後は、自分たちで育てた大根とジャガイモ・人参・ゴボウなど具たくさんのお汁や焼いもを作り、原木のベンチで焚火をしながら戴きました。手造りの味噌と醤油を入れた味は、美味しいと何杯もおかわりし、味噌造りを教えてと花が咲きました。

参加者には、みんなで育てた有機・無農薬の大根や葉物野菜を持ち帰っていただき、作業は大変だけどその味は苦労を忘れさせてくれると充実感であふれていました。



豆腐作り教室

2月8日、一般公募で豆腐作り教室をふれあい福祉センターの調理室で行いました。市の広報やエコネクションにより親子32名16組の募集をしたところ、128名も応募がありびっくりでした。

参加者は抽選で選び全員が初めての経験です。予め浸しておいた大豆を蒸して、汁と蒸した豆をミキサーでドロドロに砕き呉汁を作ります。

絹ごし豆腐は呉汁に苦り水をいれてかき混ぜて置き、蒸し器にかけて固まれば出来上がりです。一方、木綿豆腐は呉汁をナベに入れてコンロにかけて焦げ付かないようにへうでかき混ぜ、80℃まで温度を上たら一気に苦り水を入れます。ゆっくりと呉汁全体に苦り水が混ざるようにかき回せば、おぼろ豆腐が出来ます。このタイミングとかき混ぜ方が難しいです。そのおぼろ豆腐を布を敷いた木型の枠に入れて蓋をし、重石を載せて20分ほど置き固まれば木綿豆腐が出来ます。しっかり固まるのが難しく、その美味しさは格別でした。

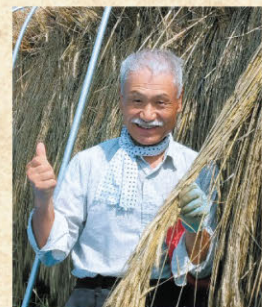


プロジェクトリーダーから一言

私が生ごみチームのリーダーとなって19年になりました。啓蒙活動としては、生ごみ減量の展示や講座などを環境フェアや住民自治協議会などで続けていますが、毎年少しずつ工夫し生ごみをなるべく出さないお料理教室など実施してきました。

実践活動として、キッズ生ごみ農園クラブを立ち上げて9年目になります。これまで生ごみ処理と堆肥化など県内外の視察をして、自分たちのフィールドを持つことの大切さを実感して始めました。生ごみの堆肥化とそれを活用する場として農場を開くことで、多くの家族会員とそれを支える関心のある人や企業に支えてもらいここまで来ました。また、ながの環境フェスタやアモーレフェスタに参加して、会の活動紹介と野菜販売をして地域との結びつきを続けています。

そして、信大工学部地域環境演習の学生が参加することで、次世代を担う若者の力と澆刺とした息吹に元気をもらっています。



リーダー
河西 弘明

市民の森づくり プロジェクト



市民の皆さんに喜んでいただけるような森づくりに取り組んでいます。

里山の大切さや山の恵みを利用する楽しさを理解・実感し、森林整備・自然観察・きのこ栽培・かんじき作りなどの活動を行いました。



主な私たちの活動をご紹介します



きのこの駒打ち

きのこの駒打ちは、毎年、行っているのですが、一般の参加者を募集して行うのは、久しぶりでした。シイタケ・クリタケ・ナメコ・ヒラタケの種駒を各1000駒ずつ駒打ちしました。

原木には、ミズナラ・ウリハダカエデ・ヤナギを使用。駒打ちした原木は、森の中に伏せました。来年の秋には、キノコがでてきてくれるかな。

木工クラフト

茶臼山植物園で開催された森林・林業フェアに木工クラフトを出展しました。

木の実、木の枝、葉っぱ・木札などを使って、汽車・自転車・トトロ・リースなどを作れるように材料をたくさん用意して当日を迎えました。ある程度は、興味を持ってもらえるだろうとは思っていたのですが、始めてみたら、次々と参加してくれる人があられて、終了間際まで参加者が途切れることなく、たくさんの方に参加していただきました。



秋の里山散策

市民の森の中を散策しながら、キノコ採りをするというイベントなのですが、このイベントを開催するのは、久しぶりでした。

開催日の1週間前は、キノコがまだ出てきてない状態だったので当日、きのこが採れるのか心配していたのですが、このイベントの日にあわせたかのようにキノコが沢山でてきていました。

今回は、子どもが4名参加していたので森の中に置いてあるトトロを探してもらうということもやってみたのですが、キノコよりも喜んでくれたかも。





Myかんじきで雪の上を歩こう

2月にかんじきを作って、雪の上を歩くイベントを行いました。かんじきの材料をたくさん用意することが出来ないで定員12名で募集したところ、22組63名もの応募がありました。抽選で5組12名を受け入れさせて頂いたのですが、前日に大雪でイベント会場の大座法師池まで行くことが出来ない方もいて、参加できたのは2組6名。

子どもの場合、かんじきから足がはずれてしまうことがあるのでロープの縛り方を工夫してみました。

前日に大雪が降ったのでふかふかの雪の上を歩くのはとても楽しかったと思います。



かんじきの輪作り

かんじきを作って雪の上を歩くイベントは、冬に行いますが、かんじきの輪作りは、6月～7月頃に行っています。

まっすぐ伸びていて、適度の太さのものを森の中から探し出して、型枠にはめ込んで輪にします。

遊歩道の補修、倒木・枯れ木の片付け

冬の間には太い木が倒れたり、遊歩道の階段が崩れたりします。4～5月には、倒木・枯れ木を片づけたり、遊歩道の補修をしています。この作業が終わった後は、森の中で煩雑になっているところを整理したり、草刈・笹刈り・ヤブ払い・ツル切等、やることは尽きないですが、沢山の方に来て頂いて楽しんでもらえるような森にしようと作業しています。



プロジェクトリーダーから一言

山の作業を通して仲間と出会い、語らい、喜びを分かち合うことができました。日常生活では味わえない何かが、そこにはあるのです。

長野市内に、市民が誰でも入ることのできる森があちこちにできて、自然の中で遊んだり、学ぶことが身近にできる、そんな森が長野市民の財産となって行く、そんな里山の在り方が、我々の夢でもあります。

ボブスレー・リ्यूジュパークの奥の森は、私たちが手入れを始める前は、立入ることもままならない藪々の森でしたが、今では気持ち良く散策の愉しめる森となりました。どうか皆さんも一度この「市民の森」に来てみて下さい。



リーダー 内山 寛純

松代オオムラサキの里



松代オオムラサキの里の環境保全に取り組んでいます。



私たち「松代オオムラサキの里」は、オオムラサキをはじめとする様々なチョウが飛翔乱舞する事を夢見て生息環境の保全・整備に取り組んでいます。



主な私たちの活動をご紹介します

オオムラサキ観察会開催(小学校/えこねくしょん/一般)

6月下旬から7月にかけてオオムラサキが成虫になる頃にオオムラサキ観察会を開催しています。

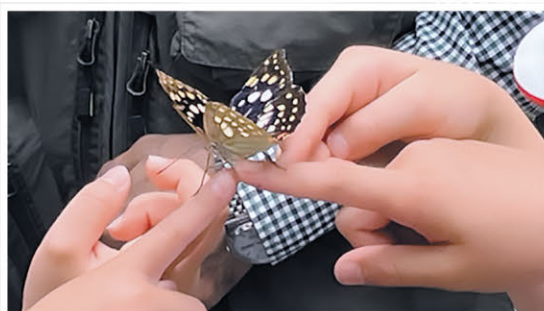
毎年、松代地域の小学校6校が授業の一環としてオオムラサキの観察に訪れています。

里山遊びとしてエノキの実を使った空気鉄砲「えのみ鉄砲」も楽しみました。



一般市民対象の観察会には約150名の参加者がありました。また、市内の小中学生に配布している「えこねくしょん」で募集した親子観察会も実施しました。

今年は暑さのためか羽化の時期が早く、幼虫を観察することができませんでしたが、多くの成虫が舞い参加者の手やからだにとまっていました。





信州大学工学部 地域環境演習受け入れ

信州大学工学部の地域環境演習として2名の学生さんが参加し、オオムラサキの里の環境整備を一緒に行ないました。オオムラサキ観察会では、自然観察道のガイドとして参加者を案内してもらいました。

また、オオムラサキの里の看板を作成していただき、入り口に設置しました。

ビオトープ池の制作

園内に水辺の生物の生息空間をつくるため、ビオトープ池を造成しました。

当初は掘った池に水が溜まらないため、シートを張って水が溜まるようにしました。水が溜まるとすぐにいろいろな種類のトンボが飛来してきました。

これからも生息環境を整えていきます。

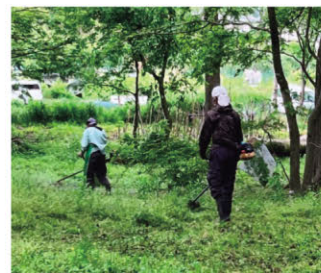


環境整備



オオムラサキの生息環境を保全するため、エノキやクワ等の間伐を行なっています。

また、定期的に草刈りを行ない、自然観察園としての環境づくりをしています。



プロジェクトリーダーから一言

私達「松代オオムラサキの里」は松代町竹ノ入地区で、身近な自然環境を守り後世に残すためオオムラサキをはじめとするチョウや昆虫などの生育環境を再生し、里山に生息する小生物や植物などの自然観察ができる環境の構築を進めています。

ここ数年、自然観察道を作りガイドブックや案内看板を制作して自然観察をする環境が整ってきています。

これからも多くの方が自然観察ができる環境を構築し啓発活動を進めていきたいと考えています。



リーダー 小林 正



絶滅危惧種ゴマシジミの保護

私たちチームは、この活動を始めて8年目です。

雨の多い年、気温が上がらず花の咲く時期が遅い年など、様々に変化する自然環境とそれから受ける生態系にどのような変化が起きるのか観察してきました。

これらを記録に残し自然環境保護の重要性を次世代につなげていければと更なる活動の充実を図ります。

主な私たちの活動を紹介します

ゴマシジミって何？

シジミチョウ科の草原に住む蝶で環境省のレッドリストの「絶滅危惧種ⅠA類」に指定されている。

現在県内では松本市奈川地区と長野市浅川地区にだけに生息し近い将来に絶滅する危険性が極めて高いため両地域とも保護活動に取り組んでいる。

蝶の大きさは開張40mmほどで薄黒い羽の表面には青い鱗粉がキラキラと輝いている。羽の白っぽい裏面には名前の通り黒のゴマ模様が点々とみられる。

生態系は食草のワレモコウとクシケ蟻とのトライアングルの関係にあり、非常に興味深い。

成虫はワレモコウの花に産卵し、そこで孵化した幼虫が成長して地面に降り、クシケ蟻と出会うと（ほかの蟻はダメ）幼虫は蟻の巣に運ばれ冬を過ごす。

幼虫は蟻の卵か蟻の幼虫を食べ成長、蟻の幼虫の出す体汁を求めて過ごしていると思われる。やがて暖かくなると幼虫は蟻の巣を離れ、朽ちた木などの下でサナギとなり7～8月に成虫となる。丁度その頃がワレモコウの花の咲く時期にあたる。

注：浅川地区生息地に大阪公立大学 上田准教授の研究室でクシケ蟻調査に入るも、いまだ蟻の発見に至らず。



保護活動 1)

生息地域の整備「林の間伐、草原の草刈り」

※ 他の草との関連性の調査の為一部の草を残す刈り方

保護活動 2)

食草「ワレモコウ」の植栽

※ 生息地で収集した種子を育苗……………浅川小学校4年生

※ 現地植栽……………関係者による移植作業





保護活動3) 「マニアによる密猟、乱獲防止、注意喚起」



- ※ 蝶の発生時期から産卵終了時期までのパトロール。
- ※ マニアによる密猟・乱獲防止と注意喚起看板設置。
- ※ 防犯カメラの設置。
- ※ 「がんばれ！ゴマシジミ」物語の紙芝居上演による勉強会と現地での説明会



密猟者は5年以下の懲役又は500万円以下の罰金に！



浅川地域あがてのゴマシジミの保護育成活動



食草のワレモコウの苗を植え替え



蝶が生息する長野市公園現地見学



「にこにこ一座」が上演



北部中央美術部が制作



ひかり幼稚園で上演

**ゴマシジミは環境省のレッドリスト
絶滅危惧種 1Aに指定されていて
絶滅寸前の貴重な蝶です！**



ゴマシジミの交尾



ワレモコウの
花に産卵



ワレモコウを
食べて育つ幼虫



天敵のクモに
捕まる！

ゴマシジミの最大の天敵は密猟者です



ゴマシジミ保護育成の
先進地・松本森川観察
先遣地



長野市公園の生息地
ロープや看板を設置



密猟者は5年以下の懲役
と500万円以下の罰金



ゴマシジミの生息地を
パトロール



青い鱗粉が目立つ
翅を広げたゴマシジミ

**長野市浅川地区住民自治協議会
まちづくり委員会・ゴマシジミ保護育成チーム**

制作 北條昭吾

プロジェクト事務局から一言

浅川まちづくり計画に位置している「ゴマシジミの保護・育成」をとおして、里山の整備、自然環境の保全の大切さを学び、浅川の特徴である中山間地と平野部の融合を徐々に深め、また子ども達からお年寄りまでの交流を図りながら、次世代への財産として繋がればと考えています。

今後も生息環境の観察とゴマシジミの生態系の研究にいつそう取り組み、地元の資産として多くの人達から感心を持ってもらうよう、継続性のある活動を目指したいと思っています。



事務局 下村 守昭

田中さくら公園作り&里山づくり プロジェクト



里山の保全＝さくら公園作り に取り組みました



令和6年6月から令和7年5月までの活動で、田中桜公園の維持管理活動に取り組みました。その結果、このような桜祭りを開くことが出来ました。

主な私たちの活動を紹介します

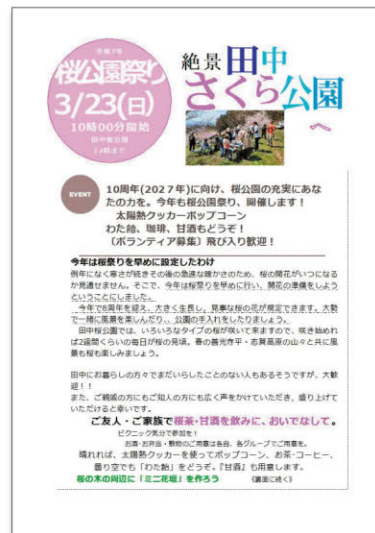


桜公園祭り

気候変動の中、いつ行うのか。一昨年は、4月4日には満開状態でした。昨年は4月13日（土）に設定。当日は願ったりの晴天。

コロナ明けで集合は避け、気持ちよい天気の中で、田中桜公園からの絶品眺望を満喫しながら、サクラの手入れ、竹の駆除等、公園整備に取り組みました。飯綱町のイベント「いづなトレイルランニングレース」出場の選手が続々と桜公園の中を走る水道道を駆け抜けていき、これを応援する一幕もありました。

今年は、昨年の長期予報で開花が早いとのことでしたので、3月末に設定。いやはや、この温暖化の進行は、桜の開花予報は当てにできないのか。ひとつ二つの花のつぼみができた頃に桜祭りを実行することとなりました。



プロジェクトリーダーから一言

桜公園も2027年には10周年を迎えます。そこで、2025年度はふさわしい10周年の計画を立て、実現化に向けて組織化をし、2026年度実行します。

地域への夢と希望を持ち、子どもたちからご老人まで、またご家族でと里山に親しむプロジェクトを進めたいと思います。

リーダー 上條 補喜





家庭で出た天ぷら油を回収し、資源として、再利用する活動をしています

事業の概要

私たちは、ご家庭で使用済みで処分が困っていた天ぷら油を回収して、資源として、再利用する活動をしています。各家庭で、ペットボトル等の任意の容器に入れて、自治体リサイクルセンターに持ち込み。計量カップで計量したあと、特製金網を通して油粕等を取り除き、用意したペール缶（20L）に注入して、保管庫に一時保管。満杯になった時点で、収集運搬業者に引き取ってもらい、精製工場に搬入。そこでBDF（バイオ・ディーゼル燃料）を製造。ディーゼル車・重機・発電機・SAF/航空機の燃料及び、塗料・石鹸の原料など、各用途に利用されています。

回収は、毎週土曜日 9:30～11:30 若槻団地自治会館リサイクルハウス前で行われ、会員スタッフが交代（当番制）で立合います。1回で平均して約5L、月にして約20L（ペール缶1缶）が持ち込まれます。最近では、近隣の地区や、家庭意外と思われる持込者が増え、年間500Lの持込量を目指しています。持込者には、ささやかではありますが、粗品（トイレトーパー 1巻）を差し上げています。（但し、動物性油脂（ラード・バター等含むもの）及び、古い油（5年以上経過もの）は、回収していません）

これは、長野市が行っているサンディーリサイクル事業を補完するものですが、住民が持込易い、より身近なところで回収するもので、地域住民から大変喜ばれています。

本事業は、2023年6月、若槻団地自治会区長経験者の有志5人で、プロジェクトを発足。その後、協力者が増え、今では10名程で構成。さらに若槻団地区長OB会の後援もいただき、協力の輪が膨らんでいます。

前年度回収実績

・令和6年度（2024年6月～2025年5月） 持込者数 294人
・ 〃 回収実績 517.7L



（リサイクルハウス全景）

各種イベント参加実績

	（主催）
・若槻団地リサイクル祭り	若槻団地自治会
・信州環境フェア	長野県
・ながの環境フェア	長野市
・コミわフェスティバル	若槻住民自治協議会
・ねんりんピック	長寿社会開発センター
・ボランティアの集い	長野市福祉協議会



（天ぷら油注入）

活動計画

- ・毎週土曜日の定例回収作業の継続
- ・環境フェア等各種イベントに参加
- ・賛同地区への立上げ協力・支援

終わりに

地元住民主体で立ち上がった当活動ですが、一自治体だけでは、大した量にはなりません。我々だけでなく、他地区へ広がっていくことが、何より念願するところです。そのための協力・支援は惜しみません。大河の一滴になりたい。

プロジェクトリーダーから一言

ながの環境パートナーシップ会議の一会員として、プロジェクトサポーターの直富商事株式会社様のご支援とご協力をいただき、2年間やって来ました。今や天ぷら油がジェット機の燃料になる時代、脱炭素・地球温暖化防止に貢献し、資源の有効活用に尽力して行く所存ですので、これまで以上のご支援をよろしくお願いいたします。

リーダー 吉田 博

廃材アートプロジェクト

活動レポート



廃棄物の新しい利用方法として、アート作品を制作する場を提供しています。
制作で廃材をじっくりと見つめる事により、廃材(素材)の歴史や発生理由を再認識して頂ければと思います。

現役の現代美術作家にご指導を頂き、廃材アートのワークショップを開催しました。

第1回 2024年10月19日



講師 藤浩志 (秋田県立美術大学教授)

第2回 2025年6月15日



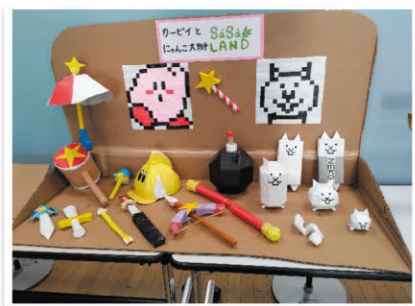
講師 小池雅久・田中為吉 (長野市在住現代美術家)

第2回ワークショップの様子はSBC信越放送の番組「エコロジー最前線」で特集放映して頂きました。

長野市役所の交流スペースで作品展示を通じた、活動のアピールを行いました。



- 普段から廃材工作を行っている、学習支援センターの児童・生徒さんの作品も一緒に展示しました。



プロジェクトリーダー から一言

資源の有効利用として3R (リデュース、リユース、リサイクル) という考えかたがあります。私たちのプロジェクトの活動は、廃棄物に新しい生命を与える復興 (ルネッサンス) であると考えています。第4のRとしての認知向上を目指します。実際にワークショップに参加された方々は、廃材と向かい合い、素材の歴史や発生理由、そして利用について真剣に考えて頂けているように思われました。

リーダー 小山 勝宏



事業者の皆さんと連携強化

プロジェクトサポーター制度の紹介

プロジェクト活動に協働・支援・共感等いただける事業者から人的・活動資金・活動場所などを支援いただき、協働体制による継続的な環境活動を展開しています。

日本無線株式会社



生ごみ削減・再生利用

コマキ工業株式会社
中澤勝一建築株式会社
信州塚田土建有限会社



松代オオムラサキの里

直富商事株式会社



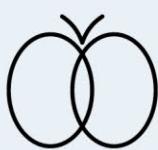
若槻廃食用油回収

「プロジェクトサポーター」「賛助会員」大募集中！

各プロジェクトに直接支援いただく「プロジェクトサポーター」、ならびに本会の「賛助会員」となっていただける事業者を募集しています。登録いただいた事業者については、本会のホームページや公式Xにて、掲載・周知をさせていただきます。詳細は、ながの環境パートナーシップ会議事務局までお問い合わせください。



脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動



デコ活

くらしの中のエコろがけ



▲デコ活宣言は
こちらから

デコ活アクション まずはここから

① 電気も省エネ 断熱住宅

② こだわる楽しさ エコグッズ

③ 感謝の心 食べ残しゼロ

④ つながるオフィス テレワーク



▲ まずは
こちらから



長野市地球温暖化防止活動推進センター

〒380-0835 長野市新田町1513-2 (82プラザ長野)
TEL 026-237-6681 FAX 026-237-6690
URL <https://www.eco-mame.net/>



団体・企業も **新会員募集中!!**

入会のお申し込み・お問い合わせ先

ながの環境パートナーシップ会議 事務局

長野市環境保全温暖化対策課内
〒380-8512
長野市大字鶴賀緑町1613番地
TEL.026-224-5034
FAX.026-224-5108
E-mail:kankyo@city.nagano.lg.jp
<http://www.nagano-ep.net/>

こちらまで
どうぞ。



公式Web



公式X



イメージキャラクター キラピー

山の緑も川の水も空の星も人の心も、
長野市中の環境も人も未来もキラキラと輝き、
生き生きと暮らせるように、という願いが込められています。

入会申込書は、ながの環境パートナーシップ会議事務局に用意してあります。また、本会のホームページからもダウンロードできます。必要事項をご記入の上、事務局まで郵送、ファックス、電子メールのいずれかでお送りください。

いつでも入会できます。会員になって、一緒に環境保全活動を進めましょう(年会費一口500円)。
18歳以下&学生の皆さんの会費は無料です。

回収します!

廃食用油回収にご協力ください

バイオ燃料に再利用するため、ご家庭の「使用済み天ぷら油」を回収しています。回収場所・日程は公式Xやホームページにてお知らせします。

(若槻廃食用油回収プロジェクト)

私たちは、
**ながの環境
パートナーシップ会議**
の活動を **応援**
しています

長野市地球温暖化防止活動推進センター

〒380-0835
長野市新田町1513-2
(82プラザ長野)
TEL 026-237-6681
FAX 026-237-6690
E-mail eco-mame@dia.janis.or.jp
<https://www.eco-mame.net/>



ながの環境パートナーシップ会議
令和6年度活動成果報告書 **「手をむすんで」**

令和7年9月発行

編集発行：ながの環境パートナーシップ会議、長野市地球温暖化防止活動推進センター

印刷・製本：中外印刷株式会社

PRINTED WITH
SOY INK
環境保全のため、再生紙および
大豆インクを使用しています